

地震予知総合研究振興会

柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会（第一回）

概要報告

1. 日時 平成21年11月24日 13:30～17:00

2. 出席者

主査	山口大学大学院	教授	金折 裕司
委員	千葉大学大学院	教授	伊藤 谷生（構造地質）
	徳島大学大学院	教授	村田 明広（構造地質）
	東京大学地震研究所	助教	蔵下 英司（陸域地殻構造）
	東北大学大学院	助教	石山 達也（変動地形）
	産業技術総合研究所	主任研究員	荒井 晃作（海洋地質）
	産業技術総合研究所	研究員	丸山 正（活断層）
	海洋研究開発機構	主任研究員	高橋 成実（海域地殻構造）
事務局	（財）地震予知総合研究振興会		

（敬称略）

3. 議題

- （1）委員会の主旨について
- （2）日本海東縁及び新潟地域の地質構造及び地形の形成について ー新潟地域を対象にした既往研究報告の紹介ー
- （3）柏崎刈羽原子力発電所周辺における地質調査結果

4. 委員会の状況

第1回目委員会の開催に先立ち、委員各位の専門性を相互に理解するため、自己紹介が実施された。また、今回の内容に関しては、今後、議論を進めていくにあたり、参加者が、この地域における調査データ、既往知見に関して共通認識を得ておくことが重要であるとの認識により設定された旨が事務局より説明された。

(1) 委員会の主旨について

佐渡島棚東縁部及び柏崎平野と西山丘陵を含む地域の地形・地質構造の成り立ちについて知見を深めるために、これら地域を含む柏崎周辺の広域の地形・地質構造の形成過程について、長い時間スケールを念頭に置いて、幅広い観点から検討する旨の主旨が説明された。

(2) 日本海東縁及び新潟地域の地質構造及び地形の形成について

日本海の形成が始まる約2千万年前以降の新潟地域（海域・陸域）の地質構造の形成に関する小林ほか（1992）¹⁾、日本地質学会編（2008）²⁾等の既往研究・文献の紹介が行われた。柏崎地域の地質構造の形成を議論するにあたり、日本海東縁部の発達過程の理解の重要性が改めて認識された。

(3) 柏崎刈羽原子力発電所周辺における地質調査結果^{※1}

当社が中越沖地震後に実施した地質調査結果に基づく発電所周辺における地質構造及び活断層評価結果について紹介が行われた。委員から、断層の評価方法等の報告内容に関する質疑が行われた。今後、柏崎地域の地形及び地質構造の形成を議論する上で、どのようなモデルを考えるかが重要であるとの意見が出された。

※1：本資料につきましては、当社本店及び柏崎刈羽原子力発電所カムフィー内の原子力情報コーナーで公開致します。原子力情報コーナーの場所については、下記 URL をご参照下さい。

<http://www.tepco.co.jp/nu/torikumi/nucleardata/index-j.html>

【参考文献】

- 1) 小林巖雄・立石雅昭（1992）：新潟地域における新第三系の層序と新第三紀古地理，地質学論集，no.37，p.53-70.
- 2) 日本地質学会編（2008）：日本地方地質誌3「関東地方」，朝倉出版，570p

以上